

# Alert 反天皇制運動 46号

[通巻 428 号]  
2020 年  
4 月 7 日発行

第 4 期・反天皇制運動連絡会

連日の新型コロナの報道、首相や知事の空疎な言葉にはあたまにくるが、ほとんど家を出ずに過ごしている。たしかに世界中が鎖国しているって、異常な事態ではある。今日の時点では「緊急事態宣言」はまだ出されていないが、連日の報道ではどうもいずれやりたいと思っている人たちがいるようだ。

厚生労働省は通信アプリ大手の LINE と協定を結び、国内 8300 万人の利用者に健康状態調査として数回にわたってアンケート調査を行う（初回は終了）。年齢、性別、住んでいる地域の郵便番号などを答え、個人が特定されない形で統計処理をして厚労省に提供するというのだ。初回調査でされた質問はたいした内容ではない。でも、これって個人を特定する形もありうるのだ。今回はコロナ対策ではあっても、今後こういう形態を通して人びとの情報を堂々とあっさり集めることができるのだ。

人との接触禁止、外出禁止になっているベルリンでは、スマホの GPS 機能を利用して外出していないか、密集していないかの調査をしているという。これも個人は特定しないということだが、かなりえぐい話だ。

日本の法律では「外出自粛要請」しかできない。それでも集会やデモを中止させられることはありうる。外出を自粛することによって雇い止めや休業を強いられている人々への生活補償や損失補償は決まっていない。感染の終息が見えないなかで、経済の落ち込みがどんなことになっていくかわからない。中止にならずに延期になったオリンピック開催までにかかるお金で、役に立たない武器など買うお金で、神がかった儀式をするお金で、一刻も早く今の事態に対処してお金を使ってほしい。オリンピックなどやってる場合ではないのだ。みなさんもお自愛を！

(中村ななこ)

今月の Alert ● さあ、「不安」と「恐れ」と「怒り」の行動だ！——\*2

反天ジャーナル ● —— 蝙蝠、アキラ、いわゆるひとつの非国民 \*3

状況批評 ● 天皇代替わりを振りかえる——千本秀樹 \*4

書評 ● 天野恵一『「象徴（人間）天皇教」とは何か！「代替わり」と戦後憲法』——長澤淑夫 \*6

太田昌国「みたび夢は夜ひらく」(118)

● 感染症の世界的な流行を捉える視点——太田昌国 \*7

マスコミ「かけの天皇制」(45)「壊憲天皇制・象徴天皇教国家」批判 その 10 ●

「昭和代替わり」の「二億総自粛」と「令和総自粛」——天野恵一 \*8

野次馬日誌 \*9 集会の真相 \*10 学習会報告 \*11 反天日誌 \*12 集会情報 \*12



250 円

● 定期購読をお願いします（送料共年間 4000 円）

● 郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス  
東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A 淡路町事務所気付 落合ボックス  
TEL/FAX 03-3254-5460 URL <http://www.ten-no.net/> mail: [hanten@ten-no.net](mailto:hanten@ten-no.net)

● 以前の情報はこちら ▶ <http://hanten-2.blogspot.jp/>

今月の

Alert

## さあ、「不安」と「恐れ」と「怒り」の行動だ！



三月二四日、政府は「立皇嗣の礼」として「立皇嗣宣明の儀」と「朝見の儀」の二つの儀式を四月一九日に国事行為として行うことを閣議決定した。「新型コロナ感染拡大」がすでに大きな問題となりつつあったときだ。この「立皇嗣宣明の儀」で、秋篠宮は次なる天皇という身分の「皇嗣」となったことを国内外に宣言する。政府の見解では、この二つの儀式を迎えて天皇「代替わり」一連の儀式すべてが終了となる。ちなみに二つ合わせて四十分足らずの儀式にかかる費用は約四〇〇万円。今年度（今年四月以降）の「皇位継承関連」予算はこの「立皇嗣の礼」を含め、上皇夫婦と秋篠宮一家の住居改修費用で二三八億円だ。このご時世になんたる無駄遣い。言葉が失ってしまう。

報道によれば、新型コロナ騒ぎで「祝宴にあたる『宮中饗宴の儀』を取りやめ、『立皇嗣宣明の儀』の招待者を当初のおよそ三五〇人から五〇人程度に絞り込んだ」という。招待者五〇人とはいえ、関係者を含めれば相当の人数になるに違いない。この儀式がクラスターになるといった懸念は考えないことにしているのか。東京都下ではほとんどの公的会場は閉鎖に追い込まれ、人が集まることを自粛させるための同調圧力が重たくのしかかっている。そのようななかで、おそらく感染回避のためにもさらに金を使い、儀式は予定通り遂行されるのだ。政府や都の「外出自粛」要請によって生活困難や死と直面させられる

人々が続出している状況にあつて、「慈愛」を売り物とする皇室はこうやって無駄遣いをしつつける。「儀式」くらい自粛しろ。中止だ中止！家の改修も諦めろ！

今年も例年どおり、反天連も呼びかけ団体となつて4・28―29連続行動の実行委を立ち上げ、「立皇嗣の礼」への抗議行動も含め連続の行動を準備してきたが、ここきて会場閉鎖の憂き目にあつている。それだけではない。どの運動現場もそうだが、新型コロナ感染拡大問題は、同調圧力とは別次元のところ私たちにさまざまな判断や決断を迫っている。行動を呼びかけること自体の是非についても議論しなくてはならない状況が続いているのだ。そこには感染拡大に寄与するかもしれない、あるいは自身も感染する可能性があるという不安と恐れが横たわっている。実行委は議論を重ねた結果、やや異例の形となるが、以下のような結論に達した。

先月すでにチラシ等で伝えている4・19の「天皇も跡継ぎもいない、アキシノミヤ立皇嗣を認めない」討論集会は会場閉鎖で中止。代わりの行動として東京駅前にて情宣行動を実行委有志で呼びかけることとなった。討論集会では、「秋篠宮論」と「皇位継承問題」について討論することとなっていたが、この街頭行動でも参加者とともに少しでも意見を交えていければと思う。また、「今こそ問う『安保・沖縄・天皇』4・28―29連続行動」も、会場閉鎖により二八日の吉田敏浩さんの講演

集会は中止（あるいは延期）。一九日の反「昭和の日」デモは実行委有志の主催で呼びかける。実行委としては、4・19に向けて抗議声明を出すことで一致。

このパンデミック状況下で、日本の、東京の状況をどれくらい的確に私たちが把握できているのか心許ない。はつきりしているのは、そのための判断材料が不十分すぎるということだけだ。政府や都、公的機関が送りつけてくる情報は正しいのか、足りているのか、まったく信頼などできないなかで、ただ不安感だけが増幅させられるような状況に人々は置かれていく。異常事態である。新型コロナは怖い。しかし情報隠蔽と「ひきこもり」作戦だけを押しつけ、その徹底のための強硬な措置を考えるだけで、疲弊する社会を救う手立てを真剣に考えない今の政治への怒りの方が大きい。一方で多額の税金を「こんなときに？」と呆れるようなタイミングで行う儀式に費やす。怒りは増すばかりだ。

声を上げたい人は、

●一九日は東京駅前（丸の内側）一五時、皇居から伸びている「行幸通り」（丸ビル前の広場）へ！

●二九日は千駄ヶ谷区民会館に二四時。

●マスク必須、少しでも体調が悪い場合の無理は禁物、としましょう。「細く長く」でも今はいい。

がんばれるところでガンバロー！

（桜井大子）

## 恩賜のマスクで蔽うもの

学齢期から老いを意識するまで長きにわたってたびたび芋の子として雑に扱われてきたので、近代人としての主体がいびつになっているのは致し方ない。他者との距離感を苦にしてきたから個としてはありがたいようだが、しかしシミリたりとも社会性を認識できていないクソな権力者から、形ばかり1〜2メートル以上の「社会的距離」を強要され、集まりのいちいちに干渉されるのはどうにも困る。

秋篠の「立皇嗣の礼」は、イベントとしての饗宴や記帳やパレードは中止のようだが、立皇嗣宣明、朝見の儀については国事行為の大礼として実施するという。「主体」が危つくなると、国家や民族、集団的な儀礼への逃避の趨勢が広がるわけで、「呪われた東京五輪」は当面のところ延期になったものの、JOC内部から新たな汚染が露呈されても「緊急事態」に紛れさせ、復活を虎視眈々とする。

とはいえ、政治や経済、株価や支持率、国策や「オトモダチ」優遇、大小取り混ぜあれやこれやの粉飾虚飾の数々が取っ払われることにより、実はスタボロでしかない「ワークニ」の実態はかなり見通しがよくなっている。これは、恩賜のマスクでは隠せまい。

(編蝠)

## 映画にみる米国機関の拷問

東京会場を終了し、(予定通りなら)四月〜五月に名古屋と神戸を巡回するイスラーム映画祭5で「神に誓って」(原題Suppasaak, 英語The Name of God, 二〇〇七、パキスタン)が上映された。封切の翌年、五〇年ぶりにインドで公開されたパキスタン映画となり大ヒットした歴史的な作品だ。この映画祭での上映も二〇一七年に続き二度目だが、新型コロナウイルスの影響で座席を一つ置きにしたためチケットは完売。しかたなくYouTubeで見る羽目に(チラシにファワード・カーンの映画デビュー作だと書いてほしかった!そしたらすぐ席とったのに!)

九二一前後の社会に翻弄される若者三人を描く秀逸な劇映画なのだが、ここに書きたいのは米国の拷問の酷さ。シカゴに留学していた主人公はアラビア語のお守りを持っていたのと(パキスタン人なのに)車を所持していたせいでつかまり拷問にかけられる。そこで思い出すのがインド映画New Yoke(二〇〇九)。こちらではインド系米国人の主人公が駅でいきなり大きな袋を頭からかぶせられてつかまる。どちらも同じような拷問シーンが出てくるので証言に基づいているのだろう。何れの主人公も釈放後に精神を病む。大スター主演の娯楽映画で米国の行為を弾劾する南アジアの映画に注目。(アキラ)

## 天皇とアベノマスク

安倍首相の一世帯に二枚の布マスク配布「政策」の評判がすこぶるわるい。ネット上でもぼろくそだが、ワイドショーの中でも、この政策の提案をした経済官庁出身の官邸官僚に、あの長嶋一茂が「私はバカですけど、こいつはもっとバカなんだと思う」とコメントしたという。当然と言えば当然で、この問題に限らず安倍政権に対する、まっとうな批判は枚挙にいとまがない。

このコロナ騒ぎが収束した後、天皇は医療現場の最前線でコロナと闘った看護師や医師に、「ご苦労さまでした」と労いと感謝の「お言葉」を発するであろう。それは、ネットを含めほとんどの「国民」には好感を持って受け取られ、医療現場はこの課程で溜まったさらなる不満のガス抜きがされるだろう。そして、長らく指摘されながら一向に改善されない、医療現場の看護師等に課せられている過重な労働と薄給等の冷遇の具体的な問題の解決がまたも煙に巻かれることになるのだ。

利権がらみで愚かな政策と天皇による「お言葉」の共存(連携)こそは、天皇制国家の国民統合のための基本構造である。「政府はダメで天皇はありがたい」との思いは、そのしつらえにまんまとのせられているだけなのだ。

(いわゆるひとつの非国民)

# 状況批評

思想・状況・批評

## 天皇代替わりを振りかえる

千本秀樹（現代史学）

### 新型コロナウイルスと天皇代替わり

この原稿を書くうえで、頭を整理しようと思つて、昨年五月一日、徳仁天皇即位の日の、NHKニュース数時間分を見た。録画だけはしておいたが、見たくなくて放置していたものである。

現在のテレビ放送が、新型コロナウイルスについて、危機感をあおる番組一色であるのに対して、ノーマルな祝賀一色で、一年もたたないのにここまで変わるのかと考えこんでしまった。テレビ局が祝賀一本、危機あおり一本で放送するのは共通している。今の放送では、安倍内閣の政策を批判する番組と支持する番組、批判する医師と支持する医師が混在しているのだが。

違うなと思つたのは、昨年インタビューを受ける人々が祝賀一色だったのに対して、今回は感染症を他人事と感じている人々が、一定の割合で存在することである。それが報道されるのも、危機アジリの一環かもしれないが。ただ、四月に入つて、都内の感染者数が一日百名に迫ると、都内繁華街から人が消えた。やはり日本国民は圧倒的に従順なのだと納得してしまった。

大事なことは、うつさない、うつされないという自己防衛はもとより、何が不要不急かということ、自分で判断することである。批判されるべきは、公表する感染者数を減らすために、検査を妨害している行政である。笑ってしまうのは、天皇制とコロナウイルス問題で共通するのが、重要でむづかしいことは先送りしようとする、官僚と政治家の体質である。

さて、秋篠宮の立皇嗣礼を残して、天皇代替わり儀式がおおむね終了した。新天皇は即位後朝見の儀で、「国民の幸せと国の一層の発展、そして世界の平和を切に希望します」と述べた。それが一年たたないうちに、このありさまである。新型コロナウイルスの流行と新天皇個人とは何の関係もないが、古代天皇制であれば、改元や天皇の交替は必至であろう。言いたいのは、天皇の終身在位制、一世一元制が、天皇制にとって、強力な武器であることが浮き彫りになったということである。

明治憲法で、天皇は無答責とされた。官僚、それ以上に軍人の世界では、「上官の命令は朕の命令」とされ、「朕」は責任をとらないから、大日本帝国は壮大な無責任国家となった。それでも裕仁天皇は、「大東亜戦争」の責任をとって、あるいは戦争犯罪人としての責から逃れるために、何度も退位を考えた。それでも裕仁天皇が在位を継続できたのは、終身在位制があつたからである。

その意味では、象徴天皇制を強化する目的を持って、明仁天皇が終身在位制を崩したことは、天皇制にとって諸刃の剣であつた。徳仁天皇が即位後朝見の儀で語ったことばのなかで、わたしが注目するのは、「日本国憲法及び皇室典範特例法の定めるところにより、ここに皇位を継承しました。この身に負った重責を思うと、肅然たる思いがします」の「重責」という単語である。

これはたんに、皇位を継承したというだけでなく、終身在位制を崩して即位したという責任が含まれているのは確実であろう。明仁天皇が、天皇史上、最強の統合力を持った天皇であると以前書いたことがあるが、徳仁天皇は、先のことばの後に、「上皇陛下がお示しになった象徴としてのお姿に心からの敬意と感謝を申し上げます。ここに皇位を継承するに当たり、上皇陛下のこれまでの歩みに深く思いを致し……」と語つた。もうひとつ、時間は大きくさかのぼるが、イギリス留学のあと、「自分でものを考え自分で決定をし、そして自分でそれを行動に移すという、そういったことができるようになったのではないかなと思います」と述べたことがある。後者は文字面だけでは好感が持てるのだが、ふたつの発言をあわせて考えると、小泉信三のあと、天皇制設計者が不在のなかで、今後の天皇制の展開については、徳仁天皇の意向に強く左右されるといってよいだろう。

### 女系天皇への右派の抵抗

女性天皇を容認することについて、いまだに議論がある。これは、男女平等が、女性解放・人間解放かという問題である。男女平等は人間解放に至るプロセスの一部であつて、究極の目標ではない。一九八〇年代、男女雇用機会均等法をめくっ

て、運動が賛成と反対に分裂したことがある。反対派は、この法律の目的は労働基準法の改悪であると指摘した。案の定、女性のなかだけに、一般職と総合職という分断が持ち込まれ、「女でもあれほど働いているんだから、男はもっと働け」と女性差別と労働強化がもたらされた。

戦後、世界中で、女性兵士が登場した。日本でも女性自衛官が誕生した。これは男女平等の前進である。しかし、女性が国家のために、殺人を義務づけられたのである。女性天皇の実現も同じ意味を持つ。皇族は様々な面で、天皇制の被害者でもあるが、天皇は最大の被害者でもある。

小泉内閣で、女性天皇実現への道が開かれたが、秋篠宮悠仁親王の誕生によって、議論は封印された。面倒なことは先送りに、という官僚と政治家の体質が如実にあらわれている。しかし皇位継承者がいすれ悠仁親王一人になってしまおうという、天皇家にとっての危機は去っていない。にもかかわらず、右派はなぜ女性天皇、特に女系天皇に反対するのか。

それは、天皇制が男系の万世一系でつながってきた、ということになっていることが、天皇制と天皇家が、外国の王制、王室に対して優位を保つ根拠になっているからである。女性差別を抜きにして、天皇制が世界で最高の制度ではありえない。女系天皇を認めると、天皇制は英国王制のレベルにまで「下がって」しまうことになる。

歴代天皇のうち、半数近くは側室の子である。特に江戸時代初期の明正天皇(徳川秀忠の孫娘、一六二九〜一六四三)からは側室の子が続き、裕仁天皇が久しぶりの皇后の子でもあった。万世一系は、側室制度によって支えられてきたのである。そのため、故三笠宮寛仁親王をはじめとして、側室制度復活の声は根強い。しかしさすがに政府としては、それは受け入れられない。

にもかかわらず右派が焦りを見せないのは、奥の手があるからではないか。旧宮家の復活という選択肢はすでに公表されている。竹田家のように、明治天皇のY遺伝子継ぎ、結婚して子どもをつくる可能性がある男子は六名ほどいると、テレビ朝日の「朝まで生テレビ」で言及された。長く国民生活を送ってきた旧皇族が皇族に復帰するのは、一般国民に抵抗があるだろうとの指摘もあるが、該当者の誰かが現皇族女性の誰かと結婚すれば、抵抗も少ないだろう。人権蹂躪も甚だしいが、可能性があるとテレビで発言するということは、そのような選択肢を考えて調査しているということだろう。

天皇家が自然消滅することを待っているのではない。君主制を人民の力で廃止

するという歴史的経験を人民の財産として残すチャンスを失いたくないからだ。

### なぜ『万葉集』にこだわるのか

「令和」という元号が『文選』に源をもつにもかかわらず、安倍首相はなぜ『万葉集』だと言い張るのか。ここにも女性差別があるように思う。『万葉集』を高く評価したのは、賀茂真淵であった。かつてわたしは次のように書いた。『万葉集』に「ますらおぶり」を見出して評価したのは、すこしさかのぼって江戸時代中期の賀茂真淵でした。良いものは男性風、悪いものは女性風という価値観に立って、『古今集』よりも『万葉集』を高く評価したのです。真淵は『万葉集』に「直き心」「まこと」を見出し、それは弟子の本居宣長をへて明治国家に受けつがれます。(アドバンテージサーバー、二〇〇八)

文学史的には、『万葉集』を再評価したのは正岡子規の「歌よみに与ふる書」(一八九八)だとされているが、それより早く、大臣を歴任した官僚政治家の末松謙澄が一八八四年に『歌楽論』で『万葉集』の音楽性を評価したことを、子規が参考にしたようである。さらに、帝国大学文科大学長で貴族院議員の外山正一が一八九六年に『帝国文学』に賀茂真淵と同様な意見を書いている。『万葉集』を再評価したのは、まず政治家であった。正岡子規も政治家になったかっただけが、出身が朝敵藩であったため、あきらめて文学に進んだ。「直き心」や「まこと」は天皇に対するものに直結していく。

『万葉集』をおとしめるつもりはないが、明治における再評価は、政治的なものであり、また女性差別的なものであったのである。安倍首相が「令和」は『万葉集』だと言い張るのは、たんに国粋主義、中国嫌いからではないように思える。

### 天皇制宗教国家の強化へ

大嘗祭で、徳仁天皇は神となった。あまり注目されていないが、即位当日、閣議は「剣璽等承継の儀」を国事行為と決定した。三種の神器の継承も宗教儀式である。NHK放送文化研究所の「日本人の意識調査」によれば、天皇に対して「好感をもっている」人は三〇％台で高止まりしているが、「尊敬の念をもっている」人は、一九九八年の一九％から二〇一八年には四一％へと急増している。戦前のように物理的強制力を持たないにもかかわらず、この結果である。徳仁天皇制は、天皇家宗教国家化をさらに強めていきつつである。



# 天野恵一『〈象徴（人間）天皇教〉とは何か！』『代替わり』と戦後憲法』

——ピープルス・プラン研究所パンフレット特別号 vol.4

長澤淑夫（ピープルス・プラン研究所）

パンフといっても一三六ページあり、読み応えたっぷりの評論集である。議論の焦点は象徴天皇制と二回の代替わり儀式の有り様とそれを支える憲法を含む法体系、政治、言説に対する批判である。特に一部リベラルの支持を受ける平成天皇の「象徴行為」と今回の代替わり儀式について、平和主義、人権、民主主義原則からの批判が天野さんの主張の要点かと思う。

四五年の敗戦によって占領改革が行われ、その目玉として新憲法が制定された。これにより日本は平和国家、民主国家となり、侵略的な軍事国家と一体化していた神権的な天皇制もいわゆる人間宣言によって無害なものとなった、日本は生まれ変わったという物語が戦後一定の支持を得て流布してきた。しかし天野さんによれば、そもそも戦争責任を取らずにそのまま居座る昭和天皇は大問題である。また、憲法には天皇制が残り、しかも第一条に天皇を象徴として規定し、その条文に「主権の存する国民」なる語句を挿入して、軽く扱っている点も問題だ。Imperial lawを皇室法とせず皇室典範なる明治憲法体制の「神聖」な尻尾を、GHQを誤魔化しつつ、生き残らせた。さらに「人間宣言」では、「自分は神ではない」とは言うがGHQ案を修正し、神の末裔である点を明確に否定する内容は修正された。こうして三種の神器を宗教的に受け継ぐ道を残した点を紹介し、天皇は「人

間の顔をした新しい神」になっただけだと天野さんは喝破する。

明仁天皇について、彼は象徴行為を問題にする。先の天皇の戦争責任を棚上げにしたままのサイパン等慰霊の旅や、先代が行けなかった沖縄に出かけ、琉球人をヤマトに取り込みに行く旅を問題にする。そもそも憲法に書いてある天皇の国事行為以外の行為は全て違憲である。しかしおそらく平成天皇は意図して憲法を破り、「象徴としてのお仕事」をつくり、天皇制の生き残りを可能にし、次代へのバトンタッチを行ったのだ。これに保守的政治家に乗っかるのは当然としても、批判的であるはずのマスコミや学者、言論人まで認めてしまいう状況を天野さんは批判している。さらに記憶に新しいビデオメッセージによって政府を動かし、生前退位を可能にしてしまったことを明確に憲法違反＝壊憲と批判する。

続いて、代替わり儀式（即位礼や大嘗祭）を違憲と批判するが、要点は明治憲法体制にあった宗教的儀式をそのまま税金で行うことは、私的領域であるうが、たとえ内廷費で行おうが同じことだと批判する。ここでの要点は「現人神」の継承儀礼（〈象徴天皇教〉の宗教儀礼）はあくまで政教分離原則（憲法二〇条）と矛盾するところなのだ。こうした儀式のド真ん中で天皇は「護憲発言」し、マスコミの賛美が続くという構図を天野さんは批

判的に取り上げる。

彼の取り上げるテーマは皇室の結婚問題、オリンピック、天皇の平和擁護発言、嶋中事件、憲法研究の空白（天皇大権と植民地支配）、天皇がらみ儀式的警備問題、共産党の変質など多岐にわたる。それぞれに対応する文献を取り上げつつ（勉強のスコイ量と質にアタマが下がります）、天野さんが論評を加え、天皇問題を日本社会の全体と関係づけて論じるというスタイルである。いくつか挟まれた対談では、こうした議論をわかりやすく語り直しているの、ここから読むといいかもしれない。

最後に要望。戦後直後、憲法研究会で活躍した高野岩三郎の共和政憲法案をいくつかどこかで取り上げて欲しい。戦前、権力が、国体を理由に労働組合を拒み、言論や表現、結社の自由を拒否した経験から、彼は共和制を主張した。この重要な主張は研究会案や社会党案にも入らなかったが、こうした主張を取り上げることにより天皇制批判に太い補助線を引けると私は思う。

●購入お申し込みは「ピープルス・プラン研究所」まで

Fax 03-6424-5749

E-mail pps@jca.apc.org

みたび

# 太田昌国の夢は夜ひらく 118

## 感染症の世界的な流行を捉える視点



かり定着した。

見慣れた世界の風景を瞬く間に変えてしまったのは、既成の秩序を破壊する社会革命ではなかった。各国が入り乱れての戦争でもなかった。たったひとつの新型ウイルスである。第一次世界大戦が終わってパリ講和会議が始まろうとする直前の——それは「戦争を内乱へ」「内乱を革命へ」転化させたロシア・ボリシェヴィキ革命が成就して数カ月後の時期でもあったが——一九一八年一月、俗称「西班牙風邪」が流行り始め、その後三年間にわたって世界中を席捲した。それ以来の、まさしく百年ぶりの世界的疫病禍である。植民地支配や侵略戦争など、つい喉元の史実の責任の取り方も弁えぬまま七五年もの「戦後史」を刻んでしまっていることは私たちの社会の耐え難い恥ずかしさであり哀しさでもあるが、ひとの寿命を超える百年も前に流行った疫病禍の経験から学び、それを活かそうとする者も極端に少ない。

「世界の変革」は、たったひとつのウイルスによって実現されつつある。多くの国々では、政府の要請あるいは命令によって、かつ資本がそれに従って、経済活動が止められている。皮肉なことに、労働者階級のイーシアティブに拠らない文字通りの「ゼネスト（総罷業）」状況が生まれている。人と人の間の距離を開け、接触機会を減らす social distancing（社会的距離戦略）という術語もすっ

み、付き合ひのある動物も異なっていた異民族同士が遭遇するたびに、否応なく疫病禍は起こった。遭遇は、経済的なグローバル化の過程で人と動物とモノが行き交うことを通して、加えて戦争で互いの兵士が各地の戦場を駆け巡ることを通して実現した。紀元前に始まったシルクロードを介しての、東アジアから地中海世界にかけての壮大な交流の際に、東方起源のペストが異世界に伝播した。二一世紀から二三世紀にかけての十字軍遠征の際にも、ペストは黒死病は人びとを苦しめた。インクマル・ベルイマンの映画「第七の封印」（一九五七）は、この史実をスウェーデンの地を背景に描いた異色の作品だ。一三世紀後半、モンゴル帝国がユーラシア大陸全体に支配を拡大した際の各地でのペストの蔓延——中世ヨーロッパは、「ペスト以前」「ペスト以後」の名づけによる時代区分が可能なのだ。一五世紀末、大航海と地理上の「発見」の果てになされた「旧世界」と「新世界」の出会いに関しては、「感染症を持つ者」と「持たざる者」の遭遇と呼ぶ研究者がいる。植民者が持ち込んだ天然痘、麻疹、ジフテリア、おたふく風邪などがアメリカ大陸の先住民族の大量死を招いた史実は、グローバル化シ

の本質を示している。アフリカ大陸の植民地分割の歴史は、アメリカ大陸におけるそれとは違って段階的に行われたが、そこで植民者たちが罹るマラリア、黄熱、デング熱、「眠り病」などに対する医学的対処こそが、帝国における「植民地医学」の始まりであったことも記憶しておきたい。

今回の事態に関して論ずべき観点は多角的だが、疫病と人類の関わりについての上段の簡潔な記述を承けて、譲ることができないのは国境を超えた視野である。エボラ出血熱は致死率九〇％と言われる深刻な疫病だったが、流行は一部アフリカ諸国に限られたために、広く世界の関心を引くことはなかった。今回も、先進諸国の繁栄する大都市の無人状態という「見慣れぬ」光景だけに心を奪われていると、ガザ、難民キャンプ、水なき民、入管施設、スラム……など、当事者にしてみれば「見慣れて」いる、不利な諸条件下に人びとが「密集」している場の困難さを見過ごしてしまう。感染症対策に関わって、視野においても実践においても、従来の先進国中心主義が貫かれて世界が動くなら、人類の先に待ち受けているのが何かは自明のことだ。

事態を「国難」と言い表す政治家を信じて、「ワンチーム」などという標語の下で国家レベルでの対応に期待するのも虚しい。日本陸軍の防疫研究所は、ペスト菌やコレラ菌を中国民衆の上に撒き散らす感染実験を行ない、多数の人びとを死傷させた。この七三一部隊の活動は、西班牙風邪流行からほぼ二〇年後のことだ。国家なるものは、経済的権益の獲得と戦争遂行のためには、こうして本質を剥き出しにすることがある。私たちが生きているのは二一世紀だからといって、国家の本質が変わったわけではない。

（四月四日記）

天の皇子  
45

## 「昭和代替わり」の「一億総自粛」と「令和総自粛」

—〈壊憲天皇制・象徴天皇救国〉批判 その10—



天野恵一

四月一日、地元同意なきまま、再稼働へ向けて工事をなし崩し的に開始してしまっている東海第二原発の工事ストップを求める、「日本原子力発電」への抗議署名を受け取らせる行動が、雨の中、四五名でなんとか実現した（六三三八筆はすでに渡しており、第二波の行動である）。「なんとか」というのは、三月七日の東電本店・日本原発抗議行動同様、コロナウイルス感染の急速な拡大が進んでいる東京に集まる行動は、すべて「自粛」するしかないのではないかとの声が、運動の中でも強くなり、大きな集会はすべて中止におさまっている状況下からである。「なんとか実行」VS「中止」の主張がぶつかる討論がくりかえされ、マイクなどのアルコール消毒体制の準備、参加者へのマスク配布など、主催者側のできるだけの対策を前提に〈有志〉で行う（あたりまえの心配ゆえに中止を主張し不参加を表明する人に対する非難などはない）ということを確認しての行動であった。無理を承知で私も参加。

この日の「原発」への「申し入れ書」の質問にはこうある。

「いま我が国も、そして世界が、新型コロナウイルスの感染症のパンデミック下にあります。この感染症災害、地震や津波、水害といった自然災害の危険性に私たちは囲まれています。これに加えて人災ともいえる『原発事故という原子力災害』を、そしてまた『これらの複合災害』を私たちはおそ

れます。その中で、人為で止めることができる原発の運転、ましてや老朽化し、人口密集地帯に立地する東海第二原発の危険性をなくすために、ぜひとも再稼働を断念され、安全な廃炉へと向かう賢明な選択を求めますが、貴社の真剣な対応策をお示しくたさう」。

原発再稼働政策をやめない安倍晋三政権は、コロナウイルスに対しても、まったく危機感なき対応を見せつけてきた。専門家会議にアリバイ的に参加するのみ、東京オリンピック開催へのマイナスイメージへの政治配慮から、なによりも早く広く実行されるべきPCR検査を、医者が必要といってもできないケースが出るころまで押さえこむ、感染を少なく見せる（人命無視の）政治である。ところがヨーロッパ、アメリカ、そして世界の感染者の爆発的拡大は、オリンピックどころではない状況になると、当然の「中止」でなく、オリンピック憲章を無視してIOC（バッハ会長）と組んで「一年延期」に持ち込む（そこにはアメリカのトランプ大統領の「一年延期」発言のバックアップもあった）。「コロナパンニックを政治的にフル活用する方向へ転じた（怯えから追いこまれたともいえるが）」。

すでに二月二十七日には、独断的に、全国小中高、特別支援学校のすべて休校要請を発した首相は、「新型コロナウイルス特措法」を強引につくり「緊急事態宣言」を発令する準備をととのえた。この動きと連動し、小池百合子東京都知事は「感染爆

発重大局面」宣言、「東京全面封鎖」の可能性を口にした（安倍自民と小池の間の関係は、次の都知事選に対立候補を自民が出さないと表明していることに象徴されるように）「コロナ・オリンピック」協力を通して深まっている。

コロナ感染クルーズ船への安倍政権の対応をめぐって、神保太郎は「メディア批評」（『世界』四月）で、こういう評価を紹介している。

「ニューヨーク・タイムズ紙が二月一八日付の電子版で、日本政府の対応を『公衆衛生危機の際には行つてはいけなない対応の見本』『疫学的な悪夢だ』と強く批判した」。

〈悪夢〉の安倍首相の独断で、通行・移動、表現の自由などの基本的な人権をまるごと制限する（緊急事態）の判断の基準がまるで不明確、すなわち安倍の都合のいい判断が可能なの宣言。これを急がす声も、マスコミの煽動もあり、今、下からわきあがっている。

「昭和」天皇重体報道から始まった三〇年以上前の「一億総自粛」化。それは天皇への心配の身振りの儀礼的全国化であり、「自粛」に抗議する運動をつくりだしたい全国各地の反天皇制運動は、その同調圧力に抗する運動の中で、「自粛」はさすがにタテマエ（ホンネはおつきあい）だけの「名目的統合」儀礼であるにすぎないことを実感し続けた。今回の「代替わり」儀礼の終わりに向かう時間に噴き出した「総自粛」化への動きは、運動の方でも、感染拡大を防ぐ（自分たちそして人々の命を守る）という限りでの自発的同調はあたりまえ。しかし、〈悪夢〉の天皇儀礼、安倍政権への批判の行動はますます必要。さて、どうする。

# 天皇陛下の御事

3月1日～3月31日

【3月1日】

**皇位継承策**◆安定的な皇位継承策を巡り、特例法の付帯決議が要求している具体的な対応を国会に確認する検討に入った。

【3月2日】

**皇居一般参観**◆新型コロナウイルスの感染拡大を受け、皇居一般参観の当日受け付けを3日から14日まで休止。

【3月3日】

**宮内庁施設**◆京都仙洞御所と桂離宮、修学院離宮の参観について、当日受け付けを4日から15日まで休止。

【3月5日】

**天皇、皇族**◆新型コロナウイルスの感染拡大を受け、徳仁、雅子や皇族が出席する予定だった行事が相次いで中止。

**久子**◆故高円宮の妻が急性虫垂炎のため、東大病院に入院し、腹腔鏡手術を受けた。

**即位関連イベント**◆安倍晋三首相夫妻主催の夕食会は、会場の紀尾井町のホテルニューオータニと当初予算の計上額を約2千万円上回る約1億6100万円で隨意契約していた。

【3月6日】

**代替わり**◆徳仁の即位を祝う短歌が国内外から2085首寄せられた。

【3月6日】

**皇居・乾通り**◆桜の季節に合わせて実施される春恒例の皇居・乾通りの一般公開を取りやめる。

【3月11日】

**天皇、皇族**◆東日本大震災から9年を迎え、徳仁、雅子、愛子が赤坂御所で、明仁、美智子が、皇居・吹上仙洞御所で黙とう。

【3月13日】

**明仁、美智子**◆代替わりに伴う引越しのため、19日に皇居・吹上仙洞御所を退去する。

**皇居一般参観**◆14日までとしていた当日受け付けの休止措置を、当面継続する。

三の丸尚蔵館についても、15日までの臨時閉館を当面延長する。

**皇宮警察**◆懇親会で、未成年の皇宮護衛官らと繰り返し飲酒をしていたなどとして、皇宮警察学校長ら16人を訓戒や注意処分、飲酒した未成年の護衛官を含む14人を口頭で指導。学校長が退職。那須では、飲酒後、男女の護衛官4人がみだらな行為をしていた。

【3月16日】

**徳仁、雅子**◆新型コロナウイルスの国内外での感染拡大を踏まえ、春に予定されていた徳仁、雅子の英国への「公式訪問」を延期する方向。

【3月17日】

**久子**◆東大病院に入院していた故高円宮の妻が午前中に退院。

【3月18日】

**「立皇嗣の礼」**◆4月の「宮中饗宴の儀」の中止を決める。

【3月19日】

**「立皇嗣の礼」**◆4月から6月の間をめどに予定されていた英国への「公式訪問」を延期する。

**天皇、皇族**◆明仁、美智子が、約26年間住んだ吹上仙洞御所から退去。天皇一家の見送りを受け、車で皇居、乾門を出る。葉山御用邸に到着。

【3月20日】

**「春季皇霊祭・神殿祭」**◆安倍晋三首相が、皇居で行われた「春季皇霊祭・神殿祭の儀」に参列。

【3月22日】

**愛子**◆学習院戸山キャンパスで行われた学習院女子高等科の卒業式に出席。4月から学習院大文学部に入学する。卒業式は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、規模を縮小し、徳仁、雅子は出席を見送る。

【3月23日】

**徳仁、雅子**◆宮城まり子の死去を受け、親交が深かった明仁、美智子が宮内庁上皇職を通じ、養護施設「ねむの木学園」に弔意を伝えた。

**裕仁**◆1956年の当日、東京のデパートで開催された写真展「ザ・ファミリー・オブ・マン」を昭和天皇が見学、長崎原爆の被災写真6枚がカーテンで覆われたことが物議を醸したと報道。

**あいちトリエンナーレ**◆文化庁が、国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」への補助金約7800万円を全額不交付とした決定を見直し、一部減額して愛知県に約6700万円を支給すると決める。

【3月24日】

**「立皇嗣の礼」**◆政府が閣議で、「立皇嗣の礼」を4月19日に実施すると正式に決定。新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、中心儀式「立皇嗣宣明の儀」は招待者数を7分の1の約50人に大幅削減する方針で、祝意を表すためとして、各府省で「国旗」を掲揚するほか、地方公共団体や学校、会社などに掲揚への協力を求める。／宮内庁が、「大札委員会」の第10回会合を開き、新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、4月19日の「立皇嗣の礼」で、皇居などでの一般からの記帳を実施しないことを決める。「立皇嗣の礼」の関連行事として、秋篠宮、紀子が4月23日に伊勢神宮（三重県伊勢市）、27日に初代天皇とされる神武天皇の陵（奈良県橿原市）を参拝する予定。

**東京五輪延期**◆安倍晋三首相が、国際オリンピック委員会（IOC）のバッハ会長と電話で会談し、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受け、7月24日に開幕予定だった東京五輪を1年程度延期することで一致。福島県で26日に始まる予定だった国内聖火リレーの中止が発表される。

【3月25日】

**明仁、美智子**◆滞在していた葉山御用邸を離れ、栃木県の御牧牧場に入る。

**新元号**◆政府から元号の候補名案を委嘱された中西進・元大阪女子大学長（日本古典）が前年4月1日の発表直前、現在の元号「令和」に加え、いずれも国書（日本古典）を出典とする「和景」「清明」を政府に提案していた。

【3月25日】

**「日の君処分」**◆2009年に停職6カ月

の「礼」

を4月19日に実施すると正式に決定。新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、中心儀式「立皇嗣宣明の儀」は招待者数を7分の1の約50人に大幅削減する方針で、祝意を表すためとして、各府省で「国旗」を掲揚するほか、地方公共団体や学校、会社などに掲揚への協力を求める。／宮内庁が、「大札委員会」の第10回会合を開き、新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、4月19日の「立皇嗣の礼」で、皇居などでの一般からの記帳を実施しないことを決める。「立皇嗣の礼」の関連行事として、秋篠宮、紀子が4月23日に伊勢神宮（三重県伊勢市）、27日に初代天皇とされる神武天皇の陵（奈良県橿原市）を参拝する予定。

**東京五輪延期**◆安倍晋三首相が、国際オリンピック委員会（IOC）のバッハ会長と電話で会談し、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受け、7月24日に開幕予定だった東京五輪を1年程度延期することで一致。福島県で26日に始まる予定だった国内聖火リレーの中止が発表される。

【3月25日】

**明仁、美智子**◆滞在していた葉山御用邸を離れ、栃木県の御牧牧場に入る。

**新元号**◆政府から元号の候補名案を委嘱された中西進・元大阪女子大学長（日本古典）が前年4月1日の発表直前、現在の元号「令和」に加え、いずれも国書（日本古典）を出典とする「和景」「清明」を政府に提案していた。

【3月25日】

**「日の君処分」**◆2009年に停職6カ月

の「礼」

を4月19日に実施すると正式に決定。新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、中心儀式「立皇嗣宣明の儀」は招待者数を7分の1の約50人に大幅削減する方針で、祝意を表すためとして、各府省で「国旗」を掲揚するほか、地方公共団体や学校、会社などに掲揚への協力を求める。／宮内庁が、「大札委員会」の第10回会合を開き、新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、4月19日の「立皇嗣の礼」で、皇居などでの一般からの記帳を実施しないことを決める。「立皇嗣の礼」の関連行事として、秋篠宮、紀子が4月23日に伊勢神宮（三重県伊勢市）、27日に初代天皇とされる神武天皇の陵（奈良県橿原市）を参拝する予定。

**東京五輪延期**◆安倍晋三首相が、国際オリンピック委員会（IOC）のバッハ会長と電話で会談し、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受け、7月24日に開幕予定だった東京五輪を1年程度延期することで一致。福島県で26日に始まる予定だった国内聖火リレーの中止が発表される。

【3月25日】

**明仁、美智子**◆滞在していた葉山御用邸を離れ、栃木県の御牧牧場に入る。

**新元号**◆政府から元号の候補名案を委嘱された中西進・元大阪女子大学長（日本古典）が前年4月1日の発表直前、現在の元号「令和」に加え、いずれも国書（日本古典）を出典とする「和景」「清明」を政府に提案していた。

【3月25日】

の懲戒処分を受けた元教諭の女性2人が処分取り消しを求めた訴訟の控訴審判決で、東京高裁が、1人だけ処分を取り消した一審東京地裁判決を変更し、もう1人の処分も取り消す。

### 〔3月26日〕

**徳仁◆東京五輪・パラリンピックの延期決定について**、徳仁が「選手、大会関係者、観客にとつて安全に開催され、平和で友好の輪が広がる大会になるよう願っている」と述べたと、側近が明らかに。

**7条解散◆自民党の伊吹文明・元衆院議長が二階派会合で、新型コロナウイルスの世界的な感染終息が見えるまでは衆院解散に踏み切るべきではないとの考えを示す。**憲法7条に基づく解散は天皇の国事行為に当たると指摘し、大義のない解散は望ましくないと強調。

**共産党◆共産党の小池晃・書記局長が、立憲民主党の福山哲郎・幹事長と国会内で会談。**天皇制や自衛隊など他の野党と見解が異なる基本政策について、野党連合政権が実現しても「政権内には持ち込まない」との方針を説明。

で会談。天皇制や自衛隊など他の野党と見解が異なる基本政策について、野党連合政権が実現しても「政権内には持ち込まない」との方針を説明。

### 〔3月27日〕

**皇居・東御苑◆一般公開されている皇居・東御苑を、28日から当面の間、臨時休園する。**

**共産党◆国民民主党の平野博文・幹事長が、共産党の小池晃・書記局長と国会内で会談。**小池書記局長が、野党連合政権が実現した場合、天皇制など他の野党と見解が異なる政策の実現を求めないと説明。

### 〔3月28日〕

**千鳥ヶ淵墓苑◆1959年の当日、第2次大戦中に海外で死亡した「無名戦没者の墓」として千鳥ヶ淵戦没者墓苑（東京都千代田区）が完成したと報道。**

### 〔3月29日〕

**「平成」◆元号の選定過程を巡り、政府が**

最終候補に残った他の元号案や、平成を含む考案者の名前を非開示としたことが、共同通信の情報公開請求に基づいて開示された公文書で分かる。

### 〔3月30日〕

**「立皇嗣の礼」◆4月19日の「立皇嗣の礼」に関して、秋篠宮が住まいの赤坂御用地と、儀式が行われる皇居を車で往復する際、サイドカーなどを伴う車列を組まずに走行する。**

### 〔3月31日〕

**明仁、美智子◆仮住まい先となる「仙洞仮御所」（高輪皇族邸）に入居。**最長で1年半住み、その後は改修工事を終えた赤坂御所に転居する。

**愛子◆歴代天皇などを祭る皇居・宮中三殿を参拝し、学習院女子高等科を卒業したことを報告。**半蔵門から車で皇居に入る。

**天皇訪韓◆明仁が天皇に即位した直後の1989年4月、宇野宗佑外相（当時、**

以下同）が、同年5月下旬に予定された韓国の盧泰愚・大統領の訪日計画を協議するため訪日した崔浩中外相に「天皇陛下の最初の海外訪問として訪韓を実現する方向で調整したい」と伝えていたことが、公開された韓国外交文書で判明。明仁の訪韓は皇太子時代から複数回検討されたことが知られるが、天皇即位直後にも日本側が進め、韓国が前向きに応じていたことが初めて分かったほか、この時期までの訪韓計画は、一貫して日本政府が主導したことも浮き彫りとなった。

**宮内庁人事◆上皇侍医藤田大司、皇嗣職宮務官藤田雅史が依願退職し、京都事務所長詫間直樹が定年退職する。**

**寄付◆参院の本会議で、徳仁が即位したことに伴い、徳仁が社会福祉事業へ1億円以内の寄付ができるようにする議決案を全会一致で可決。**

**「内奏」◆安倍晋三首相が、皇居で「内奏」。**



## 象徴天皇制と〈転向〉

.....

二月二十九日、午後五時からビープルズ・プラン研究所会議室で「平成代替りを問う」連続講座 第Ⅱ期の第六回「象徴天皇制と〈転向〉」が開催された。今回の参加者は二〇人。伊藤晃さん・天野恵一さんが問題提起をし、松井隆志さんが司会をした。

伊藤さんは、「天野さんは、その著書『危機のイデオログー—清水幾太郎批判』で転向問題の検事役を務め、自分は著書『転向と天皇制 日本共産主義運動の一九三〇年代』で転向問題の弁護人を務めた。今日はその二人が揃いました」と前置きし、「1、戦前転向—戦後転向の前提としての」「2、戦後転向」「3、戦後転向の戦前転向との比較」「4、戦後天皇制と戦後転向」「5、戦後転向を批判するわれわれの立脚点はなにか」という5つの論点を話され、5番目の論点を「①戦後国民一体にわれわれが対置する自立

的社会的共同、われわれの自己統治は国民的スケールでどう構想しうるか」「②市民社会内面で自己を堅持する条件をわれわれ各自どのように創出するか」と問題提起された。

天野さんは、「①転向論の戦後史」「②三〇年前代替りと今回、日本共産党の転向、賀詞問題」の2つの論点を、古在由重「思想とはなにか」・吉本隆明「転向論・思想の科学グループ」共同研究「転向」などの著作を例にあげつつ話された。二月二十七日に安倍首相がコロナウィルス感染拡大防止のため「全国の小・中・

高・特別支援学校に三月二日から臨時休校を行うよう要請する」と表明。異例の事態に社会がざわつく中での講座開催。質疑応答を含め約三時間の有意義なものとなった。（田中）

## 「日の丸・君が代」強制を跳ね返す 横浜デモ

三月七日、横浜で「日の丸・君が代」強制を跳ね返すデモ、街頭アピールをおこなった。「日の丸・君が代」強制と法制化に反対する神奈川の会、日本基督教

団 神奈川教区社会委員会ヤスクニ・天皇  
制問題小委員会の共催である。

当初、毎年二月から三月上旬に取り組  
んできたこの枠で、スピーカーに梁聡子  
(ヤン・チョンジャ)さんを招いて屋内集  
会も予定していた。主催者メンバーは新  
型コロナについて集会開催可否を議論し、  
集会自粛と感染拡大予測のはずまで見解  
はわかれた。結局、直前に波止場会館か  
ら貸し出しをしないという通告を受けて、  
デモだけは行うことを決めたのだった。  
象の鼻パーク(波止場会館となり)の

## 『学習会報告』

### 古川隆久『建国神話の社会史』

(中央公論社・二〇二〇年)

史実と虚偽の境界』

まず著者は、『日本書紀』や『古事記』

に描かれた「天照大神を中心とする天皇  
の祖先とされる神々が日本の建国に向け  
て活動し、地上に降りるまでの物語と、  
その子孫とされる彦火火出見(ヒコホヒデミ)  
が、ここでいう「建国神話」であり  
代天皇たる神武天皇に即位するまでの物  
語」が、ここでいう「建国神話」であり  
核心は「日本という国家を作り、代々途  
切れることなくこの国を統治してきた天  
皇は、神の末裔だ」ということだと論じ、  
この「神話」が義務教育の過程で徹底的  
にたたきこまれた、大日本帝国主義憲法  
下の教育に具体的にメスを入れる。

本書にまかれた帯には「先生、そんな  
の嘘だっべー」という生徒の言葉が刷り

広いスペースに、八〇人近くが集まった。  
女性と天皇制研究会、反五輪の会、都教  
委包囲ネットの仲間からアピールを受け  
た。梁さんも駆けつけ、例年取り組む四・

二三アクションの紹介、日本軍性奴隷被  
害にあったベポンギさんのことなどを話  
してくれた。また横浜・寿町の越智さん  
は力ジノ誘致の問題点、市長リコールに  
向けた住民投票を訴えた。コロナ情勢で  
集会、表現の自由が萎縮させられる中、  
議会の多数派が民意を無視して着々と物  
事を進めていくのは恐ろしいことだ。

こまれている。

科学的実証の論理(史実)と、神話教  
育の間の落差に、大人の先生は当然、生  
徒も、すぐぶる自覚的であり、「現人神」  
天皇統治下でも、「神話」がまるごとスッ  
キリと「史実」と了解されてはいなかつ  
た事実(乗り越えがたい矛盾)が、その  
教育現場で発された子供の言葉に象徴さ  
れている。神話こそ史実だと、多くの教  
師も生徒たちも、思い込んでいたわけ  
はなく、それは国家のイデオロギーとし  
てタテマエ的に従っていただけであつた  
実態が、本書で具体的に示されている。

この点が、私は非常に教えられた。  
とすれば、「神話」が「史実」そのも

おわてんねつとの仲間の協力なしには  
この日の行動は成り立たなかった。特に  
おっちゃんズは「元号やめよう」、「天皇制  
はいらないよ」を歌い、沿道の人の注目  
度も高かった。右翼は八月に來たのと同  
じ街宣車二台が、的外れなことを大音量  
でがなりたて、迷惑だ。

この時期はIOC、安倍たちが五輪開  
催を「完全な形で」強行しようとしてい  
る最中であつた。五輪等に向けた「中  
止!中止!」のコールも織り交ぜながら、  
馬車道、伊勢佐木町界隈を元氣よく行進  
したのであるという意識が戦前(中)日本  
の人々に定着していたわけではなく、  
戦後同様に、神話と史実は曖昧に癒着  
した物語が人々に受容されていたわけ  
である。戦後は、それが逆転して、史  
実(科学的実証)こそが前提とされた  
が、神話は消滅したわけではなく「裏  
の意識」として日本の「伝統」として再  
生産されていたのだと思う。「曖昧」  
と「癒着」原理は、戦後も貫徹してい  
たのである。この間の天皇「代替わり」  
の政治プロセスはその神話がかなり表  
に改めて露出してくる時間であつたの  
だ。

とすれば私たちは著者のごとく、ま  
だ、そしてこれからも「神話」が「史  
実」とされてしまうまで行くことはな  
いだろうと安心するのではなく、「史  
実」と「神話」が曖昧にくみあわされ

(神奈川の会/松本和史)

## 3・11を反天皇制・反原発の日 に!

原発事故から九年になる三月一日、  
「政府・東電・電力独占の責任を隠べし、  
原発を推進する『皇嗣秋篠宮出席の東日  
本大震災九周年追悼式典』・一斉黙禱反  
対!被災者・被災地切り捨てと原発労働  
者棄民化の「復興五輪」反対!三・一一を  
反天皇制・反原発の日!」集会を「3・

て作りだされている支配のイデオロ  
ギー(伝統神話・物語)と、正面から  
対峙しながら問題を考えていくことが  
大切なはずである。いいかえれば、「史  
実」でない「非科学」と批判すればす  
むわけではない。

もちろん、私たちにとても、史実  
と神話の癒着した物語を前に、まず、  
史実と神話を峻別することが必要であ  
る。その峻別作業を媒介にその曖昧(癒  
着)物語全体をトータルに論理的に批  
判し抜く作業こそが、今、必要である  
はずだ。

本書はこうした思いを強く持たせる  
書物であつた。

次回は四月二一日、テキストは佐瀬  
隆夫「1942アメリカの心理戦と家  
徴天皇制」(教育評論社)。

(天野恵一)

「1行動」主催で星陵会館において行った。コロナ感染防止を理由とした政府の行動自粛圧力を跳ね返すべく六〇名が結集した。

集会は主催者の「政府式典は、中止となったが、政府のもくろみは何も変わっていない。政府は、『追悼式』を来年一〇年で終え原発事故収束を演出しようとしている。政府・電力資本の責任追及の声を上げ続けよう」と基調報告を行った。

続いて鶴岡哲さん（一橋大学教員）は「福島原発事故隠しの東京オリンピック・パラリンピックと天皇制」と題して講演を行った。宇梶静江さん（アイヌ民族）や金時鍾さん（在日朝鮮人）の発言から、震災後も何の回心もせず、災害を政治的出来事として記憶せず、忘却するだろう日本人への痛烈な批判から始めた。オリンピック開催は原発事故を忘れさせるために行われる。オリンピックがもたらした災害の数々を具体的に指摘し、最後に復興の象徴とされる福島風景の変化は作業員の総被ばく労働時間と等価であると発言を終えた。

池田実さん（元原発労働者）は「重層的下請け構造と原発労働の実態」としてその実態を語り、今後も労働者の命と健康を守るために闘う決意を述べた。

「3・11から一〇年目 原発被ばく隠しを許さない首都圏行動」行動、「オリンピック災害」おこたわり・連絡会、4・28ー29行動実行委員会、ピリ力全国実・関東グループからアピールを受け、デモで「一斉黙祷反対」「復興五輪反対」の声を上げた。

（3・11行動／野村洋子）

## オリンピックは中止だ中止！

.....

三月二六日、「オリンピック災害おこたわり」連絡会（おこたわりリンク）は、新宿アルタ前に集合、都庁に向けて「オリンピックは延期ではなく中止だ中止」と訴えるデモに取り組んだ。

もともとこの日は、福島県の「ビレツジから「聖火リレー」が発する予定だった。おこたわりリンクとしては、当日は、いわき現地で聖火リレー反対の声をあげるメンバーと、東京でデモをおこなうメンバーとに別れて、それぞれ行動を展開する予定だった。しかし新型コロナウイルス状況でオリンピックが一年延期、聖火リレーも中止となり、いわき行動も中止して東京の行動に集中することになったもの。

アルタ前では、おこたわりリンク、反五輪の会、南相馬から避難し「ひだんれん」で活動している村田さんなどの発言が続く。

デモは、「オリンピック災害おこたわり」「オリンピックよりのちが大事」「中止だ中止！ 中止じゃなくて廃止だ廃止！」などと叫びながら、新宿西口から都庁前を通り、新宿中央公園まで進んだ。参加者八〇名。（北野蒼）



3月7日（土）●「日の丸・君が代」の強制を跳ね返す 神奈川デモ（集会の

真相参照）

3月11日（水）●被災者・被災地切り捨ての「復興五輪」反対！ 3・11を反天皇制・反原発の日に！（集会の真相参照）

●原発事故当日アクション

3月21日（土）●戦争と治安管理に反対するシンポジウム

3月24日（火）●おこたわりリンクスタンディング

3月26日（木）●中止だ中止 オリンピック 聖火リレーをやめろ！（集会の真相参照）

3月28日（土）●「聖火リレーとオリンピック災害」

4月4日（土）●救援連絡センター第16回定期総会

## 集会情報 INFORMATION

開催中●朝鮮人「慰安婦」の声をきく

13時〜18時（月・火・休日休館）／WAM 女たちの戦争と平和資料館（地下鉄早稲田駅）／主催：同館

4月12日（日）●いま共和制日本を考える

13時開場／エルおおさか6F（地下鉄天満橋駅）／堀内哲／主催：天皇代替わりに異議あり！関西連絡会（連絡先：090-5166-2651 寺田）

4月19日（日）●、アキシノノミヤ立皇嗣を認めない・アピール行動

15時〜／東京駅丸の内口前（JR東京駅ほか）／主催：今こそ問う「安保・沖縄・天皇」4・28ー29連続行動実行委員会・有志（090-3438-0263）

●コロナに乗じたヘイトをやめろ！緊急アクション

17時15分集合・18時デモ出発／新宿アルタ前広場（JRほか新宿駅）／主催：差別・排外主義に反対する連絡会 (itehyo@gmail.com)

4月24日（金）●おこたわりリンクスタンディング

19時〜／東京駅丸の内口前（JR東京駅ほか）／呼びかけ：オリンピック災害おこたわり連絡会 (info@2020kotowa.net)

4月29日（水・休）●反「昭和の日」デモ

14時集合・15時デモ出発／千駄ヶ谷区民会館1F（JR原宿駅ほか）／主催：今こそ問う「安保・沖縄・天皇」4・28ー29連続行動実行委員会・有志（090-3438-0263）

●「昭和の日」反対！大阪集会  
13時30分〜・集会后デモ／エルおおさか（地下鉄天満橋駅）／佐野通夫／主催：参戦と天皇制に反対する連続行動（06-63030449）

●沖縄・米軍人による性暴力被害から4年 スタンディング&アピール  
17時〜／原宿駅前・五輪橋（JR原宿駅ほか）／主催：基地・軍隊はいらない4・29集会実行委員会（連絡先：090-3910-4140）

\*会場等の理由により中止・延期の可能性あり。主催者へのご確認を。